

平成 30 年度 東商エコリーグ 事業報告書

令和元年 6 月

■事業概況:

<全体傾向(平成 30 年4月1日～平成 31 年3月 31 日)>

平成 31 年 3 月末現在の参加事業者数は、1,694 件で対前年度比+66 件(+約 4%)に増加した。参加事業者数は 5 年連続で増加傾向にある。

年間回収量は、約 1,278 トンで、対前年度比は約-79 トン(-約 6%)と減少した。3 年前まで連続減少傾向にあったが、平成 28 年度より参加事業者数が増加傾向に転じたため、これまでは合計量の下降傾向に歯止めがかかった結果となっていた。当年度は事業所が数増が回収量減をカバーしきれず、古紙市場の回収量減少傾向がそのまま表れた結果となった。

参加事業所数・回収量の増減傾向は各地区各様であるが、事業所数は全 10 地区中 4 地区が増加で昨年同数であった。回収量では、全 10 地区が減少した結果となった。品目別では OA 用紙、新聞、確実に減少傾向にあることが判明した。

<地域別傾向>

参加事業所数増加区は、港(+25 社)、墨田(+4 社)、大田(+1 社)、世田谷(+43 社)の 4 地区で昨年と同数であった。一方、減少区は、新宿(-1 社)、北(-2 社)、荒川(-3 社)、渋谷(-1 社)の 4 区で昨年より 3 地区増加した。

回収量の増加区はなく、本事業開始以来、初めて全地区で減少した結果となった。

<所感>

当年度は、参加事業所数は増加したが、回収量は大幅に減少傾向に転じた。古紙市場では家庭系を含めて、とりわけ洋紙部門の発生量が減少傾向にあり、本事業も同傾向を示した。

古紙の市場環境は、一昨年の中国のミックス古紙輸入禁止措置から始まり、米中貿易戦争・中国国内古紙回収量増加等により、中国の古紙輸入動向に左右され続け、価格の低迷・余剰感等で混乱を呈しており、国際マーケットの市場動向に注視し続ける必要がある。

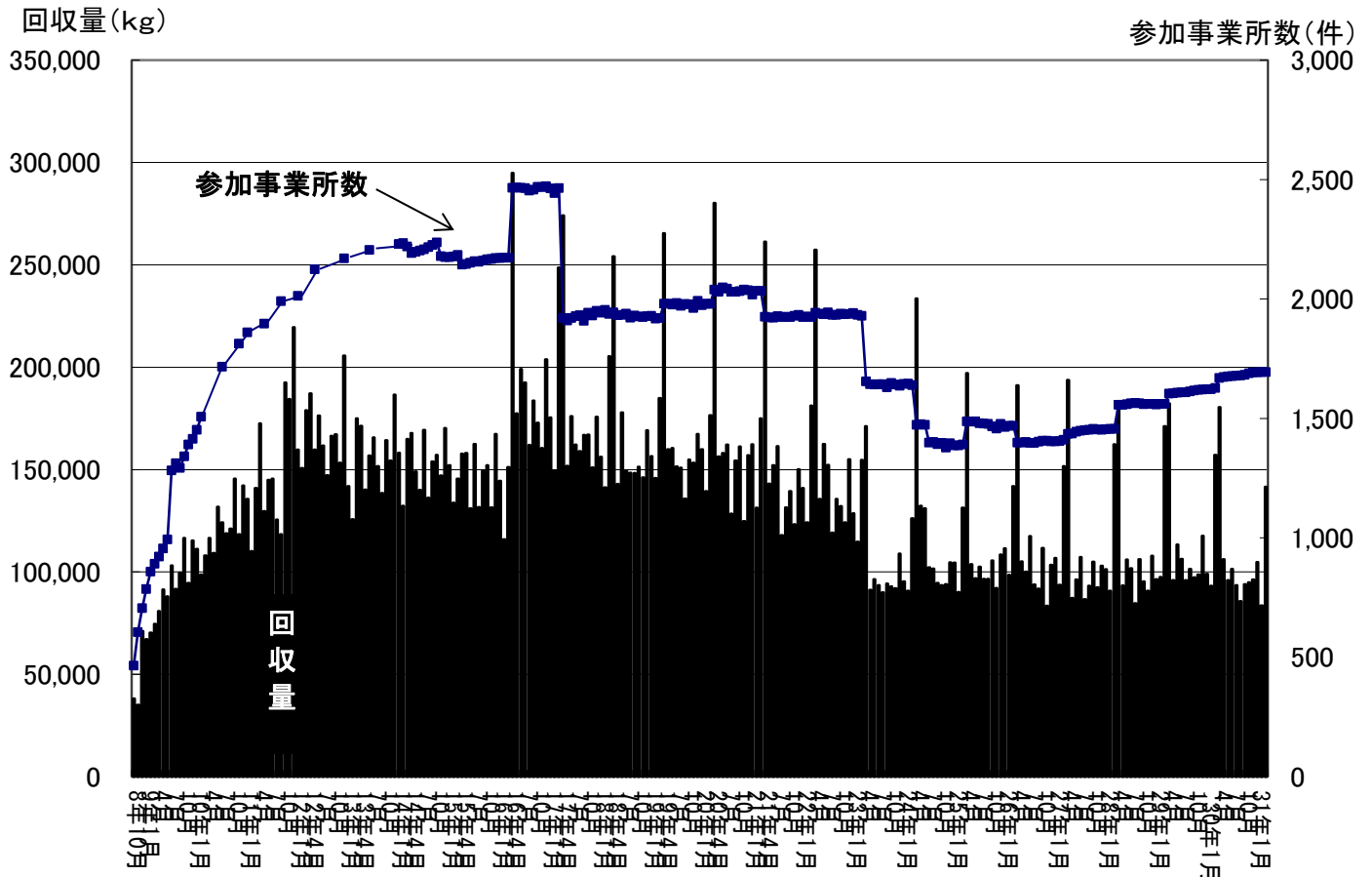
古紙リサイクル事業成立の基幹的要素は、古紙の質の確保(分別の徹底)、適正価格の維持、回収量の確保、需要の確保等に集約される。当年度は、一部地区で継続的な回収が困難となってきた、排出事業者の分別の精度が悪化してきた等の報告を受けるようになった。東商エコリーグはこれまで小規模ロットを数量でカバーし維持してきたが、今般の状況からは、排出事業者に分別の徹底依頼を強化するのはもとより、紙袋排出システム等の地区においては経費削減につながる新たなシステムを検討する等が喫緊の課題がとってきている。

一部行政においては、来年に控えた東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、より質の高いリサイクルシステムの見直しが検討されはじめた。厳しい環境下でも、関係機関が知恵を出し合い連携することで、小規模事業所のリサイクル促進の気運を損なわないようにしていきたい。

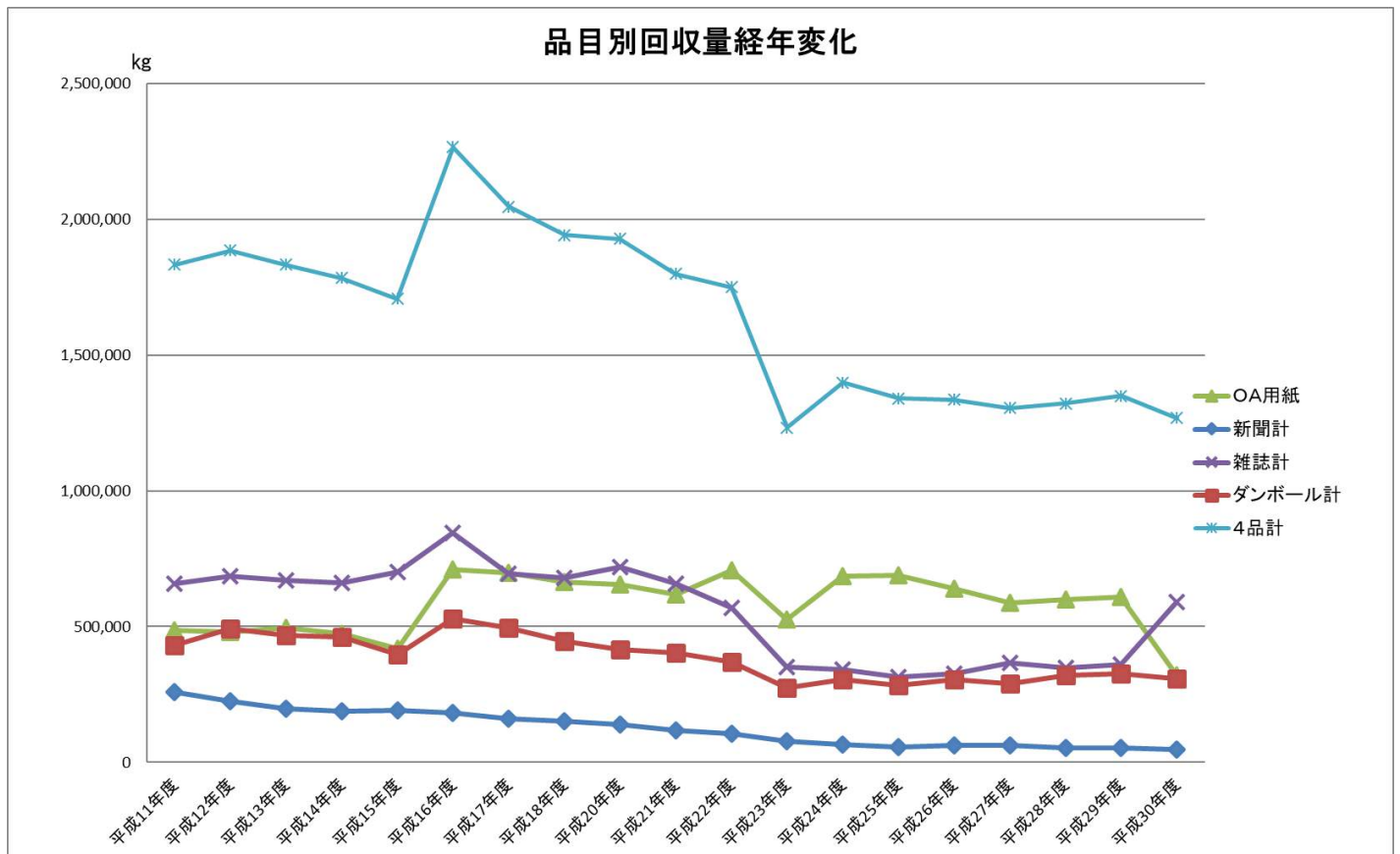
報告書作成: 東リ協会(公益社団法人東京都リサイクル事業協会) IIR 団連(東京都リサイクル事業団体連合会)

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

■回収量と参加事業所数の推移

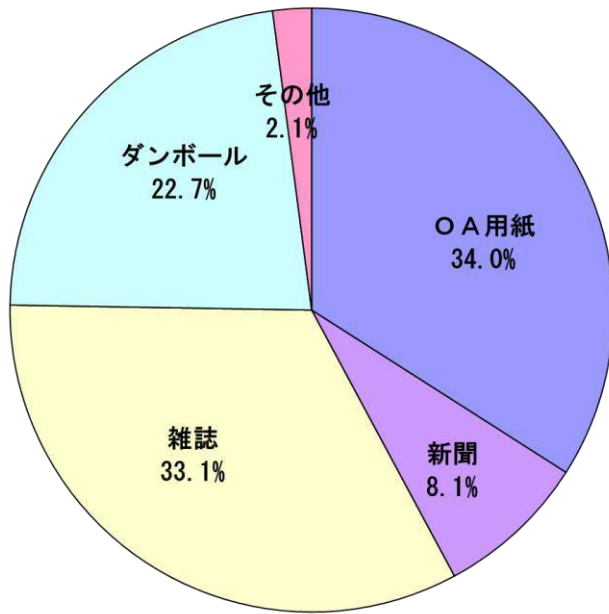


■品目別回収量経年変化



■回収古紙別割合(平成8年10月～平成31年3月)

東商エコーグ 回収古紙別割合 (平成8年10月～平成31年3月)



過去 22 年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌、コピー用紙及び連続用紙などの OA 用紙等が全体の約 7 割(67.1%)を占めている。OA 用紙(34.0%)・雑誌(33.1%)。ついで段ボールなどの梱包材が約2割(22.7%)、新聞古紙が約1割(8.1%)の組成となっている。

■古紙価格の推移

